

# 私学教員の現状と ユニオン運動の展開

**3月1日（日）午後1時30分～5時**

**会場：渋谷勤労福祉会館 第2洋室**

東京都渋谷区神南 1-19-8（各線渋谷駅から徒歩8分）

**参加費：500円（研究会員は無料）**

現在、公立学校では小学校教員の約4割、中学校教員の約6割が「過労死ライン」（月80時間残業）を超えて働き、過労死が頻発しています。国も「教員の働き方改革」を進めていますが、公立教員と同様の働き方をしている私学教員の労働問題は注目されていません。

また、教員の労働問題といえば、過重労働が注目されていますが、「非正規雇用教員」の問題は見落とされています。文科省の統計でも、私立高校では非正規雇用率は約4割にも達してきています。正社員と同じ責任ある業務を任される一方で、低賃金・有期雇用という劣悪な環境で働く教員に、私学の教育現場は依存しているのです。

今回は、このような私学教員を取り巻く労働問題の現状と、それに対する労働組合の闘いや今後の展望について、現場の労働者や労働組合の報告から考えていきます。

## プログラム

- 「私学教職員は労組法を使いまくれ！  
～クビを切られた私学非正規職員の闘い～」  
報告者 大椿裕子（大阪教育合同労働組合前執行委員長）
- 「私学業界の労働問題の実態と私学教員ユニオンの取り組み」  
報告者 佐藤学（私学教員ユニオン代表）
- 私学教員ユニオン当事者からの実態報告
- コメント：今野晴貴（NPO法人POSSE代表。著書に『闘わなければ社会は壊れる：〈対決と創造〉の労働・福祉運動論』（岩波書店）など多数。）